

総合評価(案)

資料3

(1) エコパークゾーンで実施した環境保全・創造施策の評価

ゾーン名	御島ゾーン	香住ヶ丘ゾーン	和白干潟ゾーン	海の中道ゾーン	
エコパークゾーン整備基本計画での整備内容	<ul style="list-style-type: none"> 歴史性を活かした海岸整備 砂浜の改善 水質・底質改善 	<ul style="list-style-type: none"> 磯浜の保全 砂浜の保全、改善 安全性の向上 親水性の高い海岸整備 海岸へのアクセス整備 	<ul style="list-style-type: none"> 自然生態の保全 生活環境の改善 レクリエーション空間や環境教育の場としての海岸整備 利用しやすい海岸線の整備 野鳥公園の整備 水質・底質の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 砂浜の保全 レクリエーション空間として保全 	
実施施策	福岡市水処理センター:リン除去処理(H5～H11):窒素・リン同時除去処理(H19から一部着手)、流域下水道:H12から順次整備中				
時期	覆砂	H9～H17	—————	—————	
	作濘	H10～H13	—————	—————	
	アマモ場づくり	H17～	—————	—————	
	石積護岸・海岸整備	H9～H17	H12	H15～	
	アオサ回収	—————	—————	H8～	
事業費	18.5億円	2.5億円	8億円		
整備の方向と評価	整備の方向-1	特色ある御島の歴史を感じ、散策や憩える空間として整備する	砂浜、磯浜などの自然海岸や緑地と触れ親しむ空間として整備する	水質・底質の保全や改善とともに豊かな生態系の保全創造を図る空間として整備する	砂浜にふれ親しみ、白砂青松を感じさせるレクリエーション空間として保全する
	現状	多くの人が散策に訪れ親水空間の機能が向上し、養浜後はアサリが多く見られた。	老朽化した護岸を階段護岸に整備しており、親水空間としての利用がみられ、潮干狩りも行われるようになった。	水底質の改善は実施していない 一部で浮泥層が厚くなってきている 夏季には貧酸素が発生している 野鳥の飛来数が減少傾向にある	海の中道海浜公園側は自然海岸をそのまま保全しており、公園利用者のレクリエーションや潮干狩り等に利用されている
	整備の方向-2	野鳥や海生生物の生息環境の保全や、水質・底質の改善を行う		野鳥などの多様な生物が生息する環境を活かして、自然を観察し、ふれあえる空間として整備する	
	現状	<ul style="list-style-type: none"> 地形上、河川からの流入水が停滞しやすい構造になっていたが、作濘で地形を一部掘削したことにより、河口部の海水交換が促進された。 覆砂区域の底質については、覆砂後COD、粘土・シルト分が増加してきているが、覆砂前と比べると低い状態にある。強熱減量、硫化物については、覆砂の4年後あたりから覆砂前と同程度のレベルに戻っている。 覆砂後は海底が砂泥質に改善され、底生生物の種類数が大幅に増加した。底生生物の個体数については、増減が激しいが、概ね覆砂前より多い状態である。底質の粘土・シルト分や硫化物は覆砂前のレベルに戻ったが、底生生物の種類数は依然として多い状態を維持しており、効果が持続している。 魚類等はカレイやエイなどの底魚類に加え、砂地を好むナマコや、ウニ、タイラギなど多様な生物が見られている。 海藻類は覆砂前にはアナアサ以外は見られなかったが、透明度が増加したためにオゴノリが繁茂し、周辺ではアマモの自生も見られ、藻類を餌とする魚類等も見られている。 		<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおしてバードウォッチングや干潟観察が行われており、海の広場には環境学習などをサポートするために簡易便所や倉庫を整備した 春の潮干狩りシーズンは賑わっている 	
	整備の方向-3			海岸の利用のしやすさや安全性の向上など、生活環境の改善を図る空間として整備する	
	現状			アオサ回収により生活環境の改善が図られている 老朽化した塩浜の護岸は、安全性の確保とともに、カニや鳥などの生物の生息環境に配慮した改修を行った	
総括	<ul style="list-style-type: none"> 計画していた整備はほぼ実施済 水・底質の状態も整備前より改善され、生物の生息環境としても質の向上が見られており、海岸部の親水性も高まるなど整備の効果が確認できた 	<ul style="list-style-type: none"> 計画していた整備はほぼ実施済 磯浜・砂浜は保全されるとともに、海岸部の安全性が向上し、親水性も高まっており、整備の効果が確認できた 	<ul style="list-style-type: none"> 計画していた整備のうち、塩浜の護岸整備のみ実施済 整備した護岸部では安全性が向上している 	<ul style="list-style-type: none"> 砂浜部は保全されており、レクリエーション利用も見られる 	

(2) ゾーンごとの今後の方向(案)

今後の方向(案)	<ul style="list-style-type: none"> アオサ回収について検討していく必要がある アマモ場をはじめとした多様な藻場の創出について検討していく 今後は整備のPRと併せて、環境学習の場としての利用等について検討していく必要がある 海岸部での植生再生等についても検討していく必要がある ワイズユースの視点 	<ul style="list-style-type: none"> 崩落している海岸の安全性について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 干潟は環境学習の場等として利用されており、施設を充実していく必要がある ラムサール条約登録候補地であり、今後も豊かな自然環境を保全・創造していく必要がある 海域部については水質・底質の改善、貧酸素対策等について検討していく必要がある 干潟は将来へ引き継がれる財産であり、市民とともに保全していく必要がある ワイズユースの視点 	<ul style="list-style-type: none"> ラブアースなどのクリーン活動が行われている 夏季に貧酸素が発生し、底質のCODや硫化物は高い状態にあるが、アイランドシティができて流速が速くなったため底生生物が増加している 長い砂浜で昔からの風景が残されており、市民が活用できる空間として考えていきたい
----------	---	--	--	--